

新 著 紹 介

サックスビー原著 行動の教育 高橋 俊梁

子弟を教育するに當り吾人は賞讃とか非難とかを用ひ、時には感覺的の苦痛をも與へる。而して斯かる教育手段を用ふるに當り多くの人はそうする事が教育的である、効果があるを單に經驗上知るのみで確固たる學的根據に基いてなす人は稀であらふ。實際の場合に於てそうであるのみならず。斯かる事を科學の立場から論じた書籍が少ないのである。

人はよくいふ「虫の居處が悪い」「腹の虫が承知しない」とかゝる虫を稱するものに就ては心理學者の方からはフロイド以來多くの人によりて研究され、が教育の立場から論じたものはこれ亦極めて少ない。

自分ばかりの方面の所謂實驗的研究になれる程つたのを欲しいと永らく願つてゐた。而して今高橋學兄のものされた頭書の本によむ事によりて其の渴は或程度迄癒されたのを喜んだ。で今其の點を此處に紹介する事とする。

原著は I. B. Saxby: 'The Education of Behaviour, A Psychological Study 1931. である。而してこれを高橋君自身の言葉によるを自由で省略し、或は敷衍し又は書改め」「批評し」「實例も日本の手近い實例に改め……」たものが本書である。

原著者の本書判行の目的が自分が先きに記した事を論述するの

を主としてゐたのでは無論ない。氏の主要目的は社會心理學精神分析學等の立場から有爲な公民を養成する方法を論ずるにある。

けれども新カント派の教育説に可なりの親しみを持つ我等に取ては、本書の序説にのべてある目的論(スベンサー)を繼承したにすぎない)や人間の發育が社會の影響に待つ事の多き事を論じた點などは左程に興味をそゝらない。興味をそゝるのは心理的研究の方面である。

子供が暴君となり無鐵砲輕卒を振舞原因が何處にあるかを闡明したり、習慣をつけるには如何なる方法がよいかを實驗によりて證明したり、官能的の痛苦は如何なる理由で教育的効果があるかを實例を以て示したり、獨り勝手な放恣な人間、感傷的な人間は、道樂とか遊戯の必要を單なる體育の方面からでなしに情調の統整機關として必要だと説く點などは自分の注意を惹いた著しい點である。これ等の點は一般學校教師特に生徒監の如き役にある人、又子を持つ親などは是非一讀すべき點だと思つた。

次にテオリーの上で問題と思つたのは前にも一寸觸れたが目的概念の物足りないは暫く抜きとして原著が最も力を入れた錯雜情操(Complexes)なるものに就てである。氏は單に精神分析學者の本を讀んだだけでなしに教育學者ナンの書も讀んでゐる。若し精密に讀んでゐたらナン氏が等しく精神分析學に心酔しながら Complexesといふ字を用ゐないでゐた事、氣ついてゐたであらふ、若し氣付いてゐたならば何故一言も言及しなかつたのか知

らん。あーした現象を説明するにはユングの用ひたホルメシモンの用ひたムネメシを併用したナンの遣り方が説明には便利でなからふか。

次に錯雜情操といふ譯語に就てあるが、元來精神分析學者の用ひる Complexなるものは意識が雜然混合せるものを指せるのでなくして一定の脈絡あるものを指せるのではなからふか、フイスター氏も其著に於てフロイドやユングの説なども引用した後に I use the term complex, therefore, for a coherent group of ideas, emotionally toned, which has fallen, wholly or in greater part, to the unconscious. (Fisher, O: The Psychoanalytic Method, Translation of Pryn, C. R. 1917 P. 151, 152) を述べてゐる。従て從來用ひられた譯語復合といふ方が適切でなからふか。Complex てふ言葉の使ひ方や、譯語の事などは特殊専門家に取て問題となるのみで一般讀者に取ては問題とはならない、一般讀者は教育家は勿論、家庭の親達もかゝる良書の刊行された事を喜ばねばならない。別して翻譯臭を脱して餘然流暢な日本語とし例證なども日本のものを用ひられた其に日本の現在に適する様に批評などを加へられた例へば男女共學問題の如き、高橋君の老婆心と靈腕に謝せねばなるまい。(四六版、二二三頁、定價壹圓八拾錢、内外出版株式會社出版)、(伊藤猶典)

彙

報

大正十三年度哲學科卒業論文題目

△印漢科生 ○印委託生

○哲學專攻

シエリングとベルグソン

種々なる空間

觀念論的要求と價值意識

カントに於ける自由の問題

認識作用の本質

カントの空間時間並に因果の範疇に就いて

Ricker の認識論の二途に就いて

○印度哲學史專攻

八正道の一考察

「無量壽經」研究

○支那哲學史專攻

六朝時代に於ける釋老の交渉

○倫理學專攻

道徳から宗教へ

○教育學專攻

職業教育に就て

西谷啓治

戸坂潤

向島諦宣

谷知亥之松

前田文友

澁谷藹

杉本勇三

○岡本三吾

△千葉圓了

○名畑應順

△左藤義詮

△宮田武男